



カニ購入の電話勧誘をめぐるトラブルに注意!

相談事例

水産業者を名乗る者から電話があり、「カニは好きか」、「魚は好きか」などとさまざまな魚の好みなどを聞かれて答えた。業者の連絡先なども知らず、注文もしていないのにカニと魚介のセットを送ると一方的に言われた。数日後、宅配業者から「カニを届ける」と連絡があったが、受け取りたくない。

年末に向け「カニを買わないか」「市場の売れ残りの特価で販売する」と電話があり、強引に契約させられてしまったり、断ったのに商品は届いたという相談が数多く寄せられます。高齢者の判断力不足に乗じて、強引に商品を送りつけられるような手口も見受けられ注意が必要です。

対処法

1. 必要がなければ、きっぱりと断ること 販売業者は値引きしたり、おまけをつけるなどと言ってどんどん断わりづらい状況をつくります。購入の意思がないときはきっぱりと断りましょう。
2. しっかり確認しましょう 電話で承諾した後に値段を伝えたり、別の商品が届くこともあります。電話勧誘販売で購入するときは必ず販売業者名や連絡先などを確認し、契約書面をもらいましょう。

3. 届いたら…

- ①電話で勧誘された場合、クーリング・オフができます。
- ②一方的に送りつけられた場合、受け取る必要はありません。販売業者の連絡先などが分からないことが多いため、いったん支払ってしまうと代金を取り戻すことが非常に困難です。身に覚えのない宅配便や、勝手に送りつけられてきたものは安易に受け取らないよう注意しましょう。

消費生活に関するご相談は
牛久市消費生活センターへ

<相談日>

月～金曜日(午前9時～午後4時)

<問い合わせ>

牛久市消費生活センター

☎830-8802 FAX830-8803

聖 小川芋銭

小川芋銭と俳句雑誌「ホトトギス」⑤

前回は、芋銭が江戸時代の俳句にも造詣が深く、それが挿絵中にも表れている話をしましたが、今回は中国の古典と「ホトトギス」の挿絵について説明したいと思います。

芋銭の伝記である齊藤隆三著『大痴芋銭』中には芋銭の愛読書を挙げた項があり、和書や仏典、禅書、俳書と並び『老子道德経』、『菜根譚』、『陶淵明集』などの数多くの中国の古典(漢籍)が記されています。

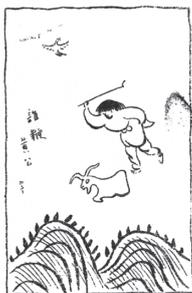
「ホトトギス」の挿絵の中で、中国の古典を基としたものには、まず「七賢人」(図1)が挙げられます。「七賢人」とは3世紀の中国・魏王朝末期から西晋初頭に実在した7人の知識人のことです。『世説新語』には、7人は常に竹林に集い、世俗の礼儀作法に拘らず、気ままに酒を酌み交わしていたという伝説があります。この7人は、実際には集ったことではないのですが、古くから多くの画家たちが「竹林の七賢人」という画題で作品を残しています。

「誰鞭黄公」(図2)は「神仙伝」中の仙人、黄初平を題材にしたもので、一面に転がる白い石を数万の羊に変える術を会得し、それを見た兄も共に仙人になり、不老不死となったとあります。

このように、芋銭は独学で中国の古典を学び、画題を得ていたのです。



↑図1:「七賢人」
(明治44年7月号掲載)



↑図2:「誰鞭黄公」
(大正8年2月号掲載)

小川芋銭研究センター学芸員

秦 美紀子